

## 第2節 「基礎的・汎用的能力」を構成する4つの能力と今後の実践

### (1) 「基礎的・汎用的能力」を構成する4つの能力

まず、答申が「基礎的・汎用的能力」の内容について、次のように述べていることを確認しよう。

- 基礎的・汎用的能力の具体的内容については、「仕事に就くこと」に焦点を当て、実際の行動として表れるという観点から、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つの能力に整理した。
- これらの能力は、包括的な能力概念であり、必要な要素をできる限り分かりやすく提示するという観点でまとめたものである。この4つの能力は、それぞれが独立したのではなく、相互に関連・依存した関係にある。このため、特に順序があるものではなく、また、これらの能力をすべての者が同じ程度あるいは均一に身に付けることを求めるものではない。(第1章3(2)③)

その上で、それぞれの能力の具体的な内容を次のように整理している。

#### (ア) 人間関係形成・社会形成能力

「人間関係形成・社会形成能力」は、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力である。

この能力は、社会とのかかわりの中で生活し仕事をしていく上で、基礎となる能力である。特に、価値の多様化が進む現代社会においては、性別、年齢、個性、価値観等の多様な人材が活躍しており、様々な他者を認めつつ協働していく力が必要である。また、変化の激しい今日においては、既存の社会に参画し、適応しつつ、必要であれば自ら新たな社会を創造・構築していくことが必要である。さらに、人や社会とのかかわりは、自分に必要な知識や技能、能力、態度を気付かせてくれるものでもあり、自らを育成する上でも影響を与えるものである。具体的な要素としては、例えば、他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ等が挙げられる。

#### (イ) 自己理解・自己管理能力

「自己理解・自己管理能力」は、自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。

この能力は、子どもや若者の自信や自己肯定観の低さが指摘される中、「やればできる」と考えて行動できる力である。また、変化の激しい社会にあって多様な他者との協力や協働が求められている中では、自らの思考や感情を律する力や自らを研さんする力がますます重要である。これらは、キャリア形成や人間関係形成における基盤となるものであり、とりわけ自己理解能力は、生涯にわたり多様なキャリアを形成する過程で常に深めていく必要がある。具体的な要素としては、

例えば、自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等が挙げられる。

(ウ) 課題対応能力

「課題対応能力」は、仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力である。

この能力は、自らが行うべきことに意欲的に取り組む上で必要なものである。また、知識基盤社会の到来やグローバル化等を踏まえ、従来の考え方や方法にとらわれずに物事を前に進めていくために必要な力である。さらに、社会の情報化に伴い、情報及び情報手段を主体的に選択し活用する力を身に付けることも重要である。具体的な要素としては、情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善等が挙げられる。

(エ) キャリアプランニング能力

「キャリアプランニング能力」は、「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である。

この能力は、社会人・職業人として生活していくために生涯にわたって必要となる能力である。具体的な要素としては、例えば、学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善等が挙げられる。(第1章3(2)③)

この基礎的・汎用的能力の開発の経緯について、答申は、「各界から提示されている様々な力を参考としつつ、特に国立教育政策研究所による「キャリア発達にかかわる諸能力(例)」を基に、「仕事に就くこと」に焦点をあて整理を行ったものである」と述べる。ここで言う「キャリア発達にかかわる諸能力(例)」とは、国立教育政策研究所生徒指導研究センター『児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について』(平成14年)が開発した「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」において示された「職業的(進路)発達にかかわる諸能力」、つまり「4領域8能力」を指し示している。

以下、「基礎的・汎用的能力」が、「4領域8能力」を主軸としながら「各界から提示された様々な力を参考としつつ」開発されたものであるとの指摘を踏まえ、これまでに提示された社会的自立に関連する以下の能力論を取り上げ、その関係を整理することにしよう。

- 「人間力」 内閣府・人間力戦略研究会(人間力戦略研究会報告書)平成15年4月)
- 「就職基礎能力」 厚生労働省(「若年者の就職能力に関する実態調査」結果 平成16年1月)
- 「社会人基礎力」 経済産業省・社会人基礎力に関する研究会(『社会人基礎力に関する研究会—中間とりまとめ—』平成18年1月)
- 「学士力」 中央教育審議会(「学士課程教育の構築に向けて(答申)」平成20年12月)

まず表3-1においてそれぞれの能力論の概要を示し、表3-2において「基礎的・汎用的能力」を中核としながら、今回の答申が示した「社会的・職業的自立、学校から社会・

表3-1-1 これまでに提唱された主要な能力論の概要

職業的(進路)発達(キャリア発達)にかかわる諸能力	人間力	就職基礎能力	社会人基礎力	学 士 力
<p>【作成者】 国立教育政策研究所生涯指導研究センター(児 童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について) 平成14年 【定義等】 児童生徒が、将来自立した社会人・職業人として 生きていくために必要な能力や態度・資質</p>	<p>【作成者】 内閣府・人間力戦略研究会(人間力戦略研究会報 告書)平成15年4月 【定義等】 社会を構成し運営する人 とともして自立した一人の 間として力強く生きていく ための総合的な力</p>	<p>【作成者】 厚生労働省(「若年者の就職能力 に関する実態調査」結果 平成16 年1月) 【定義等】 事務系・営業系職種において、 事務系・営業系職種が採用に当たって比較 重視し、基礎的なものとして比較 的短期間の訓練により向上可能な 能力</p>	<p>【作成者】 経済産業省・社会人基礎力に関 する研究会(「社会人基礎力に関す る研究会—中間とりまとめ—」平 成18年1月) 【定義等】 職場や地域社会の中で多くの 人々と接しなが仕事をしてい くために必要な能力</p>	<p>【作成者】 中央教育審議会(「学士課程教育の構築に向けて(答申)」 平成20年12月) 【定義等】 学士課程で育成する21世紀型市民の内容(日本の大学が授 与する学士が保証する能力の内容)</p>
<p>役割把握能力 目標設定能力 計画実行能力 情報収集・分析能力 情報活用能力 情報活用能力 情報活用能力 意思決定能力 人間関係形成能力</p>	<p>知的能力的要素 基礎学力(主に学校教育を 通じた修得される基礎 的な能力) 専門的な知識・ノウハウ 「基礎学力」「専門的な 知識・ノウハウ」を持ち、 それらを継続的に高めて いく力 創造的思考力 社会・対人関係力の要素 コミュニケーション・スキ ル リーダーシップ 公共心 規範意識 他者を尊重し切磋琢磨し ながらお互いを高めあう 力 自己制御的要素 意欲 忍耐力 自分らしい生き方や成功 を追求する力</p>	<p>コミュニケーション能力 意思疎通 自己主張と傾聴のバ ランスを取りながら理 果的に意思疎通が できる 協調性 双方の主張の調整を 図り調和を取ること ができる 自己表現力 状況にあった訴求力 がある 職業人意識 責任感 向上心・探 求心 職業意識・ 勤労観 基礎学力 読み書き 計算・数学 的 思考 社会人常識 ビジネスマナー 基本的なマ ナー 資格取得 情報技術関係の資格 経理・財務関係の資格 語学関係の資格</p>	<p>前に踏み出す力(アクション) 主体性 働きかけ力 実行力 考え抜く力(シンキング) 物事に進んで取り組 む力 他人に働きかけ巻き 込む力 目的を設定し確実に 行動する力 現状を分析し目的や 課題を明らかにする 力 課題の解決に向けた プロセスを明らかに し準備する力 新しい価値を生み出 す力 チームで働く力(チームワーク) 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコ ントロール 力</p>	<p>知識・理解 専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に 理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴 史・社会・自然と関連づけて理解する。 (1) 多文化・異文化に関する知識の理解 (2) 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解 汎用的技能 知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能 コミュニケーション 日本語と特定の外国語を用いて、読み、 書き、聞き、話すことができる。 数量的スキル 自然や社会的現象について、シンボルを 活用して分析し、理解し、表現すること ができる。 情報リテラシー 情報通信技術(ICT)を用いて、多様な 情報を収集・分析して適正に判断し、モ デルに則って効果的に活用することがで きる。 論理的思考力 情報や知識を複眼的、論理的に分析し、 表現できる。 問題解決力 問題を発見し、解決に必要な情報を収集・ 分析・整理し、その問題を確実に解決で きる。 態度・志向性 自己管理能力 自らを律して行動できる。 チームワーク 他者と協調・協働して行動できる。また、 他者に方向性を示し、目標の実現のため に動員できる。 倫理観 自己の良心と社会の規範やルールに従っ て行動できる。 市民としての社会的責任 社会の一員としての意識を持ち、義務と 権利を適正に行使しつつ、社会の発展の ために積極的に関与できる。 生涯学習力 卒業後も自律・自立して学習できる。 総合的な学習経験と創造的思考力 これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、 自らを立てた新たな課題にそれらを活用し、その課題を解 決する能力</p>



表3-1-2 「基礎的・汎用的能力」とこれまでに提唱されてきた関連する諸能力との関係について（試案）

社会的職業的学習 社会・職業・技能 な発育に必要な能力	職業的（進路）発達（キャリア発達）にかかわる諸能力	人間力	就職基礎能力	学士力
基礎的・基本的な知識・技能	職業的（進路）発達（キャリア発達）にかかわる諸能力	基礎学力（主に学校教育を通じて修得される基礎的な知的能力）	読み書き 計算・数学 職業遂行に必要な数学的思考 職業遂行に必要な数学的思考 職業遂行に必要な数学的思考 職業遂行に必要な数学的思考	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解することにも、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・文化に照らす知識の理解 (1) 多文化・異文化に照らす知識の理解 (2) 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解
勤労観・職業観等の価値観	職業的（進路）発達（キャリア発達）にかかわる諸能力	職業意識・勤労観 職業意識・勤労観	職業意識・勤労観 職業意識・勤労観	教養的スキル 自然や社会的現象について、シンボリックを適用して分析し、理解し、表現することができる。
意欲・態度	職業的（進路）発達（キャリア発達）にかかわる諸能力	意欲	向上心・探求心 働くことへの関心や意欲を持ちながら進んで課題を見つけてレベルアップを目指すことができる。	情報リテラシー 情報通信技術（ICT）を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
論理的思考力・創造力	職業的（進路）発達（キャリア発達）にかかわる諸能力	論理的思考力 創造力	創造力 新しい価値を生み出す力	論理的思考力 情報や知識を整理的・論理的に分析し、表現できる。
人間関係形成・社会形成能力	職業的（進路）発達（キャリア発達）にかかわる諸能力	自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力 コミュニケーション能力 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を促していく能力	意思想通 協調性 自己表現力 社会人常識 基本的なマナー	コミュニケーション・スキル 日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。 チームワーク 他者と協調・協働して行動できる。また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員することができる。 市民としての社会的責任 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。
自己理解・自己管理能力	職業的（進路）発達（キャリア発達）にかかわる諸能力	自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力	責任感 社会の一員として役割の自覚を持つている	自己管理能力 倫理観 生涯学習力 自らを律して行動できる。 自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。 卒業後も自律して学習できる。
課題対応能力	職業的（進路）発達（キャリア発達）にかかわる諸能力	目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実行していく能力 意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適應する 課題解決 課題解決 課題解決 課題解決	主体性 ストレスコントロール力 主体性 実行力 課題発見力 計画力	問題解決力 課題を察見し、解決に必要な情報を収集・分析し、整理し、その問題を確実に解決できる。 これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に適用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力
キャリアプランニング能力	職業的（進路）発達（キャリア発達）にかかわる諸能力	生活・仕事上の多様な役割や進路及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深め、目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実行するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索することにも、必要となる情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力 様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬこととを整理し、決定を行っていく能力 意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適應する 課題解決 課題解決	自分らしい生き方や成功を追求する力	問題解決力 課題を察見し、解決に必要な情報を収集・分析し、整理し、その問題を確実に解決できる。 これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に適用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力
専門的な知識・技能	職業的（進路）発達（キャリア発達）にかかわる諸能力	専門的な知識・ノウハウ	情報技術関係の資格 諸学関係の資格	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解することにも、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・文化に照らす知識の理解 (1) 多文化・異文化に照らす知識の理解 (2) 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解

職業への円滑な移行に必要な力」について、本研究報告書における試案としての整理を示した。

## (2) 「基礎的・汎用的能力」に基づくキャリア教育実践の方向性

表3-2が明示するように、「基礎的・汎用的能力」は「4領域8能力」を全て包含するものである。その上で、a)「社会人基礎力」等において重視されていながら、「4領域8能力」においては必ずしも前面には取り上げられてこなかった「忍耐力」「ストレスマネジメント」などの「自己管理能力」の側面を加え、b)「仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力」、すなわち「課題対応能力」に関する要素を強化したものと言えよう。

このような基礎的・汎用的能力に基づく実践を構想する上では、答申が、基礎的・汎用的能力を提示する際に、次のように指摘していることもあわせて確認する必要がある。

これらの能力をどのようなまとまりで、どの程度身に付けさせるのかは、学校や地域の特色、専攻分野の特性や子ども・若者の発達の段階によって異なると考えられる。各学校においては、この4つの能力を参考にしつつ、それぞれの課題を踏まえて具体的な能力を設定し、工夫された教育を通じて達成することが望まれる。その際、初等中等教育の学校では、新しい学習指導要領を踏まえて育成されるべきである。(第1章2(3)③)

これからのキャリア教育の実践に当たっては、まず、基礎的・汎用的能力が、これまで各学校における実践の基盤となっていた「4領域8能力」を継承し、各界で提唱された様々な能力との整合性を図りつつ、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力であることを正しく理解する必要がある。また同時に、基礎的・汎用的能力は「4領域8能力」と同様に、学校や地域の特色、児童生徒の発達の段階に即し、学校がそれぞれの課題を踏まえて具体的な能力を設定し、工夫された教育を通じて達成するための参考として活用されるべきものである。「4領域8能力」と基礎的・汎用的能力とを相互に関連性のない別個の能力論であると見なすことは誤りであり、「基礎的・汎用的能力」に基づくキャリア教育の取組の構想はゼロからの再スタートでは全くない。各学校においては、これまでの実践の蓄積を生かしつつ、基礎的・汎用的能力を基盤とする実践へと転換を図る必要がある。

無論、学校によっては、基盤となる能力論の見直しよりも、これまでの実践の定着を図ることの方が当座の優先課題であると妥当性をもって判断される場合もあろう。その場合には、基礎的・汎用的能力への転換の時期を遅らせる方策も考えられる。ただし、その際には、基礎的・汎用的能力の内容と提唱の理由を十分に踏まえ、将来的な転換を視野におさめながら、キャリア教育の取組の改善を図っていくことが特に求められる。